

# 公民館通信



2020年  
2・3月号  
No.288

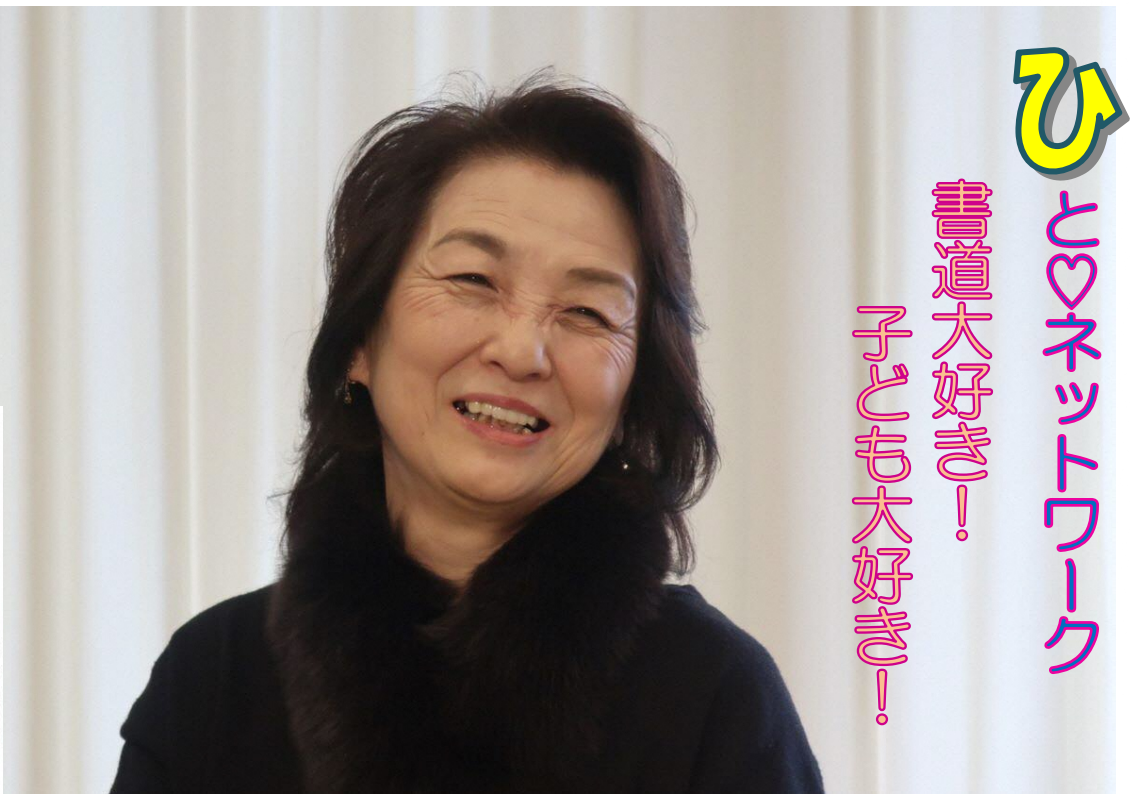
# たのしいまち

編集：たのしいまち編集委員

発行：多摩市立永山公民館 ☎206-0025 多摩市永山 1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003  
多摩市立関戸公民館 ☎206-0011 多摩市関戸 4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491

## ひと♡ネットワーク

書道大好き！  
子ども大好き！



教材の凧

### えんぴつくん・漢字くん 照井 明子さん

鉛筆の持ち方を、小学校に上がる孫に教えてやってーそんな友人の要望に応えて書き方サークル「えんぴつくん」を始めたのが10年前。さらに子ども達の成長とともに書道サークル「漢字くん」を立ち上げた。現在最高学年は高1。二つを合わせて27名が書写に励む。子ども達とのおしゃべりも大切。心の思いを受け止め、ストレス解消になればと願う。教材には、日本文化に親しんでほしいと小林一茶の俳句や百人一首などでも使うそうだ。昨年、メンバーの一人が日野税務署主催書道展で多摩市長賞を受賞した。それ以前にも、東京都の書道展で金賞を受賞。指導力は確かだ。

素敵な笑顔の照井さん。取材には真っ黒の衣装で現れた。聞けば午後から大人の書道教室があるという。「彩(あや)」と名付けられたその教室。墨は黒一色なのはどうして？でも教材の凧のお話から、不思議に納得した。「壽」と大きく書かれ、右肩に「福来る」の遊印があるその凧は、下3分の1が金色。道具を見せて頂くと朱色の他に金・銀・青・紫もあったのだ。生まれは目黒。5年生の時、前回の東京オリンピックが開催され、5機の飛行機が白い煙で空に五輪マークを描くのを見上げていた。ある日、カラーの五輪が描かれたことには大感動！実は、飛行機は自衛隊ブルーインパルス。青空に5色の五輪が描かれたちょうどその時、開会式が行われていたのだ。子どもが好んで幼稚園の先生になった。仕事として鉛筆の正しい持ち方を園児に教えることもあったが、その後、結婚、出産を経て育児に専念。そんなある日のこと、ある書道展で「つじ書会」の先生の作品を観た。体中に電撃が走り、それをきっかけに書道を学び始めたという。その後真剣に取り組み師範を取得。今では書道教室のほか、お習字ボランティアとして老人施設にも行く。